

タブレット 活用法探る

富大附属小・実験始まる

富大附属小で28日、授業でタブレット端末を導入するための実証実験が始まった。初日は教員を対象とした体験授業が行われ、約20人が教育現場での効果的なICT(情報通信技術)の活用法について考えた。



タブレット端末の使い方を学ぶ教員
—富大附属小

体験授業は電子教材開発のチエール(東京)の村上有弘マーケティング部長が講師を務め、教員が児童役となつて算数の立体の体積を計算する問題を例に行われた。タッチペンで端末に書き込まれた計算式や解答がリアルタイムで大型スクリーンに映し出され、村上部長は「クラス全員の解答が

体積授業は電子教材開発のチエール(東京)の村上有弘マーケティング部長が講師を務め、教員が児童役となつて算数の立体の体積を計算する問題を例に行われた。タッチペンで端末に書き込まれた計算式や解答がリアルタイムで大型スクリーンに映し出され、村上部長は「クラス全員の解答が

する機能などが紹介された。実験のアドバイザーを務める富大人間発達科学部の高橋純准教授は「実際の教育現場でどのような使用方をするのか、データを蓄

一目で分かると同時に、一人一人の計算式の違いから児童の理解力も把握できる」と説明した。

このほか、教師用端末から児童用端末に対し、操作

積し、授業の質の向上につなげたい」と話した。
実証実験は2016年3月末まで行われる。来年10月に同小で開かれる全日本教育工学協議会全国大会でタブレット端末を使った公開授業を予定している。